

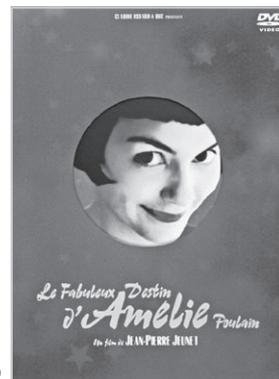
### 『アメリ』

2001年/フランス/ジャン=ピエール・ジュネ監督作品

幸せは、身近なところに眠っている。  
少しの勇気をもって前へ踏みだそう。

会員 藤井 裕子 (62期)

【アメリ】  
販売：アルパロス  
価格：4,935円(税込)



#### 肯定的に描く「幸せは人それぞれ」

この作品は、2001年に公開され、私が大学生の時に会ったフランス映画だ。ノスタルジックなパリや郊外の風景が美しく、アコーディオンによる音楽が良く合っていて、フランス映画のエスプリを感じる。

この作品の主人公であるアメリは、難しい両親の下、幼少時代は他人と関わらずに生きてきて、22歳の時に、パリのモンマルトルのカフェで働き始める。彼女の周りには、過去もそれぞれ、思い思いに人生を生きる人ばかりだ。

アメリの趣味、つまり幸せを感じることは、クレーム・ブリュレの上の焼き目をスプーンで壊したり、水切りをしたりすること。アメリの周りの人も趣味はバラバラ。この映画では、「幸せを感じる瞬間は、人によって違う」ということが実に肯定的に描かれている。

アメリは、ある壮年の男性に、彼の少年時代の宝物を返す手助けをして、彼に少年時代の思い出を蘇らせ、逃げていた問題に向き合わせることで、彼に希望と幸せを感じさせた。アメリは、これを機に、他人を幸せにすることの喜びを感じて、自分の人生に限界を感じている周りの人に、ちょっとした悪戯をして、幸せを感じさせていく（いじめる人には天罰を下す）。

アメリ自身は、他人との関係がうまく結ばず、恋にも悩み、自分は幸せになれないと悩む。しかし、幸せにしてあげようと気遣っていた老人に、自分が幸せを

つかむには、勇気をもって前へ進むのも大事と教えられ、恋が実り、人生が広がっていく。

#### 「人に幸せを感じさせられる」弁護士になれたら

公開されたとき、私は、映画館へ弟と一緒に観に行き、その後も、つまずいた時や元気になるにたい時に、ふと観たくなり、ビデオ等で何回か観てきた。観た後は少し幸せな気分になり、随分助けられてきた。私たちの世代も私たちなりの悩みはあるもので、人生に悩んだ親友にアメリのDVDをプレゼントし「幸せって人それぞれだよ」と語り合ったりした。

フランス人の人生に対する考え方や哲学は、日本人である私には、おそらく深くは理解できないし、真似できるものではないと分かっているが、この映画から、人生の意味や幸せ、他人への気遣いの大切さなどを考えさせられた。そして、他人を幸せにするには、自分の人生もそれなりの状態でなければ、到底続かないこともよく理解できた。

私は、弁護士とは、一般の人より大きな問題を抱えている人に、法的知識を駆使して問題を解決することで、少しだけでも幸せを感じる状態にできる職業だと信じている。アメリがモンマルトルでやっていたことと本質的には相通じるものがあると思うし、そのような弁護士になれたらと思う。

少し元気がないなと思われた方は、アメリを観て、身近に眠っている幸せを見つけてみてはいかがでしょうか？